くまもと九条の会ニュース

2009.1.20 Vol.25

http://d.hatena.ne.jp/kumamoto-9jo/

編集・発行　くまもと九条の会
編集局　熊本市奥古閑町1729　真行寺内
発行責任者　木村浩則（TEL 090-6423-1064）

新春のお慶びを申し上げます

くまもと九条の会代表　猪飼　隆明

と言いたいところですが、日本も世界も、一生懸命額に汗して働いているものにとっては、そのような気になれないかもしれません。それほどに、政治も経済もメチャクチャです。

麻生首相は、「百年に一度という経済不況」、「回復に三年かかる」といいますが、何の根拠もありませんが、この不況が「未曾有」（ミゾウ。麻生はミゾユウと読みます）であることはいうまでもありません。不況・恐慌は、いつでも本質的に過剰生産からうまれます。今回も同様ですが、実体経済と架空の数字上の経済との格差が、こんなに開いたのは初めてのことです。これが、政治や経済が「倫理性」を喪失した結果であることを私たちは見抜かねばなりません。

わが熊本の生んだ思想家・政治家である横井小楠は、政治の要路に立つものは常に、「堯舜三代の治」を模範にしなければならないといいます。「徳」によって裏打ちされない政治は倒されなければならないというのです。その徳とは、どんなことを言うのかといえば、「損上益下」の思想、すなわち政治は民に利益をもたらすものでなければならない、自らの利益を損なっても、民の利益を優先すべきであるというのです。「歩札」といいますが、先物取引やマネーゲームは、民を困窮させるから厳禁すべきで、それを犯したものは、その地所や財産を没収すべきだというのです。

横井小楠は、今年生誕二百年です。以上の主張は、三十代になってからのものですが、彼の政治姿勢は、この点については一生変わっていないようです。この思想を基礎に、世界平和につながる思想を形成していくのです。

一八六九（明治二）年一月五日に京都で暗殺されますが、その思想は生き続けています。いや、生き続けさせねばなりません。

歴史に学びながら、この苦境を力をあわせて乗り切り、民主的で平和な日本と世界を築く、二〇〇九年にしようではありませんか。

全国九条の会からの呼びかけ

- ●一人ひとりの創意や地域の持ち味を大切にした取り組みで、憲法を生かす過半数の世論を。
- ●継続的・計画的に学習し、条文改悪も解釈による憲法破壊も許さない力を地域や職場に。
- ●思い切り対話の輪を広げ、ひきつづき小学校区単位の「会」の結成に意欲的に取り組みを。交流・協力のためのネットワークを。

『九条の会』第三回全国交流集会に参加して

子育て九条の会　田中之浩

11月24日、東京の教育会館で開催された「九条の会」第三回全国交流会に参加してきました。私は初めての参加でした。会場のホールは九百名を越える参加者でいっぱいになり熱気に溢れていました。

まず、『九条の会』事務局長の小森陽一さんが、「昨年の交流集会後、新たに四九三の会が結成され、合計で全国に七二九四の『九条の会』ができました。」と開会挨拶。続いて、『九条の会』の呼びかけの大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝、鶴見俊輔の四氏が短いあいさつをされました。

次に、アフガニスタンなどの紛争の現場で活動している、日本国際ボランティアセンター代表理事・谷山博史さんの特別報告がありました。「非暴力による問題解決は可能だ。」という信念で対話を重視。「対テロ戦争」は、対話の否定で、展望がなく失敗。九条を持つ日本こそ、アフガン和平の仲介ができると、力強く話されました。

その後、全国でユニークな活動をしている5つの地域分野別の「会」の報告があり、午前の全体会が終りました。

午後は、分散会です。私の割り振られた第4分散会は、参加者80名程、報告者18名、私の発表はその中ほどでした。

二〇〇四年十月発足後の、『くまもと九条の会』の活動と、今年作成した冊子『憲法九条と私たち』の取り組みについて報告しました。そして、冊子『憲法九条と私たち』を持ち上げて、表紙の絵は、『くまもと九条の会』呼びかけ人の一人である、浜田知明さんの版画『初年兵哀歌』であること。内容は、県内の身近なところに、こんなにも大変な戦争体験をした人が、いたのかと驚くものが多く、大変好評であること。今日は、少し持ってきていますので、希望の方には後ほど販売しますと、紹介しました。ありがたいことに、持参した20冊は完売できました。

分散会後、もう一度全体会があり、10の分散会と、2つの分科会からの報告があり、最後に『九条の会』から次のような呼びかけがあり閉会しました。

●一人ひとりの創意や地域の持ち味を大切にした取り組みで、憲法を生かす過半数の世論を。
●継続的・計画的に学習し、条文改悪も解釈による憲法破壊も許さない力を地域や職場に。
●思い切り対話の輪を広げ、ひきつづき小学校区単位の「会」の結成に意欲的に取り組みを。交流・協力のためのネットワークを。

集会は、全体的にびっしり詰まっていて、内容もあるのですが、時間に追われ、慌しく感じました。午前の全体会は、やむを得ない面もあるのでしょうが、午後の分散会ぐらいは、報告者を絞って、じっくり報告を聞き、質疑討論してお互いに学びあうことが、必要かと思いました。私の参加した分散会だけの問題かもしれませんが、それぞれの報告者が報告をして、終っただけという感じがしました

〈編集後記〉　新年明けましてあめでとうございます。私たちの平和への願いにもかかわらず、イスラエルによるガザ地区空爆をはじめ、世界情勢は、不穏な動きにつつまれています。憲法九条の世界史的意義をあらためて確認し、広めていこうとの必要を実感しています。同時に、「派遣切り」問題では、憲法の生存権を求める運動の広 がりにも注目したいと思います。今年もよろしくお願いします。（木）

感銘を与えた講演と映画の夕べ

二〇〇八年十一月二〇日、熊本市民会館大ホールで「くまもと九条の会4周年『講演と映画の夕べ』」が開催されました。県下の九条の会や地域・団体から約八〇〇人の方々が参加されました。

最初に小林多喜二原の映画「蟹工船」（山村聡監督）が上映され、反貧困ネットワーク事務局長の湯浅誠氏が「貧困の現状と戦争と平和」と題して講演を行いました。

開会挨拶で、くまもと九条の会の猪飼隆明代表は、「蟹工船」の時代と今日の情勢に触れた後、田母神元航空幕僚長の論文について、「憲法を変えるべきであると堂々と、何の後ろめたさもなく発言できるところに来ている」と権力のおごりを指摘し、国民の監視の必要性を強調しました。

湯浅誠氏は講演でまず、労働者が滑り台から滑り落ちるように貧困化しているが、これは椅子取りゲームのように椅子の数が減らされているためで、自己責任にしてはならないと指摘。次いで、食べていけない人が増えている中で、自衛隊だけは元気になってきていると自衛官募集のセールストークを紹介し、アメリカでは8割の人が経済的理由で軍隊に入っていることも紹介ました。その上で、生存権を保障した憲法25条と戦争を放棄した憲法9条はセットで語らなければならないと強調しました。

最後に、いま貧困が貧困を生む悪循環が進んでいるが、この悪循環を断ち切るために、それぞれがそれぞれの場で人間らしく働き生きていけるように、あきらめずに改善していこうと呼びかけました。

初めて屋外で行った三周年の企画の経験を経て、今回は、熊本市内の繁華街・上通り入口「ビプレス広場」で終日アピールする企画も検討しましたが、福田首相の突然の退陣による解散・総選挙という情勢を迎え屋外の企画を断念し、映画「蟹工船」の上映と、「反貧困ネットワーク」の湯浅誠さんの講演に集中しとりくみました。

今回、解散・総選挙の時期が流動化するという情勢のなかで、若い人たちも多く参加したと言うことは、九条の会の取り組みが地域に定着してきていることと、この催しが時宜にかなったものであったことを示していると言えます。

最後に事務局から、5周年の企画に向けて、団体や地域でご活躍のみなさんのご意見やご要望をお寄せくださいますようお願いします。　くまもと九条の会事務局・荒木　正信

くまもと9条の会では憲法改悪反対の署名行動を活動の大きな柱としています。第23回集計では

188,610筆

の署名をいただきました。今後ともこの署名活動を会員の力で推進していきましょう。

「講演と映画の夕べ」の感想

近松和代

「蟹工船」が若者の間で話題になっていると耳にしていましたので、1度は是非見てみたいと思っていた矢先お話を頂き、良い機会を得ることが出来ました。

映画の内容は途中から見た事と音声が悪い為か方言が聞き取りにくく、映像のみでしたので、きちんと内容を把握出来たかは自信ありません。

力のある者、お金のある者、いわゆる勝ち組と言われる人々にとってはある意味この日本は暮らしやすいのかもしれません。連日報道されている派遣切り等を見ていると時代や内容は違えど、「蟹工船」には現代社会に類似している部分が多い様に思えます。

大手の自動車会社等の派遣切りが問題になっていますが、講演の中で紹介されていた若者の話とよく似ている内容でした。報道されている方達はほんの一部にすぎず、零細企業の方がもっと深刻で、もっと過酷な立場にいる人々が多くいることと思います。

先日放送された特集番組では、アフガニスタンやアフリカの貧困層の人々は、仕事もなく生活（家族）の為にテロ組織に所属したり、少年兵になる子供も少なくないとの事でした。まさに「貧困＝戦争」の図式が成り立っていました。不況が続き、若い人たちが将来に希望を持てないままでは他人事では済まされない現状に来ているのではないかと危機感を覚えます。

映画の最後はあまり希望の持てない終わり方だった為、何か胸に引っかかりすっきりしない部分がありましたが、この様な終わり方の方が見ている者に何か考えさせられるのかもしれません。原作には続きがあるとの事でしたので、是非読んでみたいと思います。

行事報告

人吉市で「町内」九条の会発足総会

願成寺・泉田9条の会

七月三日の準備会を皮切りに五回の準備会を経て人吉東小学校区願成寺町を中心に泉田町も加わって八月八日「願成寺・泉田9条の会」が発足、第一回総会が町の公民館で開かれました。

中心になったのは、元町内会長三人を含む人吉球磨9条の会地元会員のみなさんでした。出席者は二十数名と少々人数的にもまた若者の姿が少ないなど寂しい一面もありましたが、地元代表の挨拶の他9条ネットワーク代表、9条の会市議の代表など力強い挨拶をはじめ意見発表が続き時間が足りないくらいの盛り上がりを見せました。

終戦三日前に満州ハルピンで召集令状を受け、スパイ容疑でそのまま抑留生活に入ったという会の木崎代表は、十三年間の悲惨で残酷な戦争体験をもとにして「9条を守ることの大切さを、そして地域の人たちは語り合えば必ずその意義を理解してくれる。だからこそ今、地域住民に語りかけ合う住民組織が重要」と言った思いを熱く語られました。

会は、「日本と世界の平和を守り、地域の住みよい暮らしを守るために、憲法9条を市民自身の手で守り抜く」と宣言を採択、年間千筆の署名数を目標に掲げ、決意し合いました。最後に中学校音楽教師の指導により、峠三吉の「にんげんをかえせ」みんなで高らかに歌い上げ閉会しました。